



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)F-PJホテル・ミュージアム	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.3	/5		ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.4	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①【共用部分】【宿泊部分】外皮U値1.0未満、窓システムSC:2.9 ④【ホテル】【集会所】給水・汚水管はBを使用、Eは不使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤外構緑地指数46%、自生種や野生動物の保全に配慮した緑地を計画 ⑥地表面の緑被率を上げ敷地内暑熱環境に配慮 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦断熱効果の高い断熱材や建材の採用によりBPI_m=0.88 ⑨建物内照明器具は全てLED器具を採用。 ⑩中央監視システムの導入によるエネルギー管理 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪定流量弁の採用、省水型便器の採用 ⑪給水源として井戸水を利用 ⑫躯体材料以外におけるリサイクル材を2種類採用 ⑬ODP=0、GWP値1以下の発泡断熱材の採用 ⑬【ホテル】不活性ガス(CO2)消火設備の導入 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮隣棟間隔Rw 0.42、地表面被覆対策率97% 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.2
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰節水型器具・機器の採用、井水を利用、非常用水栓の設置 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱【宿泊部分】スタンダードルーム:43.3㎡ ⑲壁長さ比率【共用部分】0.16 【宿泊部分】0.19 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑中庭を配置し、ホテル・ミュージアム棟とスパ棟との一体感を形成 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.3	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒建物の配置等を配慮し景観に調和 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮隣棟間隔Rw 0.42、地表面被覆対策率97% 	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ⑲ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)F-PJホテル・ミュージアム	階数	地上9F 地下1F
建設地	静岡県駿東郡小山町	構造	SRC造
用途地域	区域内 市街化調整区域	平均居住人員	500 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,ホテル,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2020年8月3日
敷地面積	30,464 m ²	作成者	中園 昌志
建築面積	5,733 m ²	確認日	2020年8月4日
延床面積	25,823 m ²	確認者	鳥巢 良太



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 92%
 ③上記+②以外の 92%
 ④上記+ 92%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境になじんだ自然を感じる屋外空間を実現し、カーミュージアムを併設したモータースポーツの魅力を発信するホテル・地域の魅力や特性を発信するというホテルのコンセプトに沿った建築計画と、井水などの地理的環境を活かし、省エネルギーに配慮した設備計画 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 客室には複層ガラスの大きな開口部を設け、遮熱性と快適な眺望を確保した。またNC30程度の静粛性ある客室を目指した。 客室の空調には四管式FCUを搭載。年間を通して各室冷房 	<ul style="list-style-type: none"> 客室はスタンダードルーム(2名)で43m²、天井高を2.9mとし、ゆとりのある広さを確保した。 大きなロビーラウンジ、また、従業員用の執務室にもラウンジを設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 広大な敷地に地域の植生に合わせた樹木・地被植物を設け、既存樹木については極力残置するように計画し、生物環境の保全に配慮し、ヒートアイランド現象対策としている。 小山町景観計画の基準に合わせ、外観の色彩計画が富士山
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーに配慮し、空冷式ヒートポンプチャラーを空調主中央熱源として採用。パブリックエリアは個別空調を採用し、省エネルギーを図っている。 省エネルギーに配慮し、客室のサッシが開状態の場合は室内空調を送風モードへの切替制御を取り入れることで、省エネ 	<ul style="list-style-type: none"> すべての上水について井水を利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内に多くの植栽を植え、大気汚染に配慮する。 騒音・振動規制法の基準を準拠できるように敷地境界線から十分に離隔を取って設備機器を配置している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される